

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【お年寄りを敬う】を第一に 暮らしや環境 地域との触れ合いを大切にしたい理念を職員 間で共有してその実践に向けて日々取り組 んでいる	「地域に密着した社会に信頼される会社をめざして…」 という企業理念を基にしたホームとしての理念があり、 事務所内やホールに掲示し、利用者や来訪者にわかる ようにし、職員にも周知・徹底している。また、入居時に 利用者や家族にパンフレットなどで理念について説明し 理解を促している。更に、職員については会議などで集 まる都度ふれるようにしている。職員の異動等に際して は理念の主旨を十分説明しており、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とは、挨拶したり気軽に声掛け 合う関係が出来ている 村内のイベントには 成るべく参加出来るように支援している 近 隣の介護事業所との交流を行い楽しい時間 を過ごしていたが今年はコロナで外出 イベント 交流が出来なかった	自治会に加入し、会費を納めている。今年度新型コロナウィルス禍ということあり、地域の人々との交流については自粛ぎみである。そうした中ではあるが、ホームとして文化祭に作品を出品し利用者も見学に出掛けている。コロナウィルス前の平常時には地域の一員として清掃活動に参加したり、地区のお田植え祭りの見学や近くの認知症デイサービスの利用者との交流、老人保健施設のお祭りなどに参加している。更に、こちらも自粛しているが平常時には紙芝居、お話、楽器演奏や歌などのボランティアが来訪し利用者とふれ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村内の安心見守りネットワークへ登録して 村の一員として認知症理解の輪を広げる為の発信をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一年に6回偶数月に会議を行っている 今年 はコロナで6月に一回行ったのみ 家族に は運営推進会議で話し合う事柄を文章にして送った	平常時には偶数月に開催している。家族、区長、組長、村職員、駐在署員、民生児童委員、ボランティア代表者、ホーム職員などで構成し、事業報告やスタッフの異動報告などを行い、随時助言もいただいているが、新型コロナウイルス禍、通常と同じように議題・内容を文面で委員に報告し、意見・要望を頂くようにしている。平常時の会議には利用者家族全員に参加の声掛けをしており、2～3名の家族が出席し、意見・要望をいただいている。また、同じく平常時には運営推進会議の中で「身体拘束等の適正化委員会」も開き、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の留意点やサービス提供等について、市の担当者に連絡を取り指導を仰いでいる	平常時には毎月、隣市のケアマネージャー連絡会やその後の研修会に参加し、情報交換やスキルアップに努めているが、新型コロナウイルス感染を避けるためオンラインでの参加となっている。ホームに空きが出た場合、村社会福祉協議会や老人保健施設、訪問看護事業所など、関係方面へ相談し、新規利用者の確保に繋げている。あんしん見守りネットワークにも登録し連携をとっている。管理者が自治体からの委託を受け介護認定の更新手続きを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、利用者の生活の自由を制限するもので利用者の尊厳ある生活を阻む事になります。当施設では、利用者の尊厳と主体性を尊重し拘束廃止に向けた意識を持ち身体拘束をしないケアに努めています。	転落防止のために家族の了承を得て柵をしている方がいるが必要時以外は外すように努めている。新型コロナウィルス禍で自粛しているが通常であれば年6回の法人研修の中の1回として身体拘束に関する研修が組み込まれ、職員は必ず受講し人権意識を高めている。平常時には運営推進会議の場で「身体拘束等の適正化委員会」も開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて、虐待事例など周知し、施設内での虐待防止に努めている。又、毎月の職員会議の際に情報共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が1名おられ実際に関わりながら 研修などには積極的に参加し他職員と情報を共有するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居計画は利用者と家族の最初の共同作業であると考え、必要書類は十分に説明し、家族からの説明にも丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。又、制度改正が有る場合は、再度文章にして説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意思や 希望については、気軽にいつでも話して頂ける様な雰囲気作りに配慮している。お忙しい方の多い中、面会が途絶えがちになっているので1年に6回ホーム便り【コロナ】を家族に送り日頃の様子を新聞でお伝えしている。	多くの方が言葉で表出することが可能となっている。利用者からの意見・要望についてはその都度、職員が聴き取り、それに沿うように努めている。現在、家族の面会は窓越し面会やオンライン面会となっているが2ヶ月に1回ぐらいの方が多く、面会時には職員が様子などを詳細に伝えるようにしている。通常であれば12月に家族会を開き利用者や職員との交流があるが今年度は検討中である。新型コロナウィルス禍でもホーム便り「コロナ」を2ヶ月に1回家族の元へ配布し、家族とのコミュニケーションを図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員からの意見、提案を聞く機会を設けている。必要時には、個別面談の機会を設ける様に取り組んでいる	新型コロナウィルス禍で自粛しているが、平常時には、毎月、職員会議を開催し、意見交換やコミュニケーションの場としている。その代わりとしてLINEで運営上の通知・連絡などを行っている。また、申し送りノートや連絡ノートなどで意見を出しやすい工夫している。法人としてキャリアパス制度が導入されており代表者との面談があり、また、随時、施設長との面談も行うことが出来るようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整等就業環境の整備に努めている。また、個別評価シートを実施して適切な評価を行いやりがいのある職場環境の整備に努めている。スキルアップによって評価され昇給が決まるようになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表職員が研修計画を策定し、自己研鑽を図る取り組みを立てている。施設内研修は全体計画に基づいて実施している。職員には外部研修の情報を払い、希望する研修に参加できるように取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や介護福祉士、認知症ケア専門士等の研修に参加し、他の事業所の方と情報交換を行い参考点は積極的に取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴の積み重ね・本人が納得されるまで話を聞き安心される事で信頼関係が出来ている。他の利用者や職員と安心して共同生活を送ることが出来るように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時を始め、いつでもご家族の声を聞く事が出来るように気軽な雰囲気作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時早々に課題整理を行い、暫定の実施表を作成し、アセスメントを十分に行い担当職員と課題分析を行っている。ニーズを見極め、適切な対応が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(共に暮らす)という意識を持ち、人生の大先輩といことを前提とし、昔取った杵柄を發揮して頂き古き時代の良さ 新しき時代の良さなど会話の中で持ちつ持たれつの人間関係を作れるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際には、施設での生活状況や、課題などを報告・相談などして家族と共に本人を支えていく関係作りに努めている。また、家族の生活状況の変化についても収集している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の日頃の表情、言動に注意し、心理状況を想像しながら家族、友人の訪問依頼、自宅訪問などを行い家族と一緒に過ごして頂ける時間を大切にしている	平常時でも高齢化などにより知人や友人が来訪することが少なくなっているが、住み慣れた土地のホームということから利用者は馴染んでおり、入居から日の浅い方も以前から継続して住んでいるように落ち着きを見せている。毎年、9月には地域の習わしであり、また、利用者も馴染みの朝舞い(獅子)が来訪していたが、今年度は中止となっている。そうした中、今年度も10月の村文化祭にホーム利用者全員で制作した作品を出し、可能な方が見学に訪れている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、必要時に職員がさりげなく声をかけ橋渡し役に努めている また仲の良い利用者から声をかけて頂き、笑顔が見られる関係構築に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に立ち寄れる様な関係を保ち近隣の情報交換等行っている また利用中の本人の日々の表情などを撮影しアルバムを作り退所時に家族に思い出として手渡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での小さなつづやきは記録表の中に赤字で書き込みし、プラン作成に役立てている。現在の満足度、希望、意向の把握に努め、毎月行う職員会議に実施表を基に話し合いを行っている	職員は日々、連絡ノートや生活記録票に目を通し、一人ひとりの利用者の希望や意向の把握に努めている。思いや意向を表出できる方が多く、また、日頃のつづやきなども大切にし、意向に沿えるようにしている。職員は利用者の生活歴、嗜好なども把握しており、また、ホーム入居後の利用者について新しく気づいたことも共有し支援に役立てている。言葉で伝えることが難しい方についても日頃の仕草や視線などから意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人 家族から思いを語る機会を作り、これまでの暮らしぶりの情報の把握に努めている。またレクリエーションの中で【回想法】を用い本人の会話の中での情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人が個々のペースで生活できる様に支援している その中で、現状の把握に努める様にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や朝の申し送りが出た意見など検討して現状に合ったケアが出来るようにプランを立てて支援している	9名の利用者をスタッフ全員で支援している。ケアプランの短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月で、「ケアプラン評価シート」を使用し、「プラン継続」か「プラン終了」かの見極めをしている。ホームでは「生活記録票」で食事摂取や24時間の排泄状況、日中の記録を取り、モニタリングは毎日の「ケアプラン実施表」でチェックし、平常時には毎月中旬に開催される職員会議で行っている。また利用者の状態に変化があった場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日がモニタリングと言う意識を持ち、ケアプランの実践に対する記録や気づきを個人記録に記入しており、ケアプランにいかしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人が思いを伝えられるような雰囲気作りに努力しながら常に柔軟な支援が出来る様に心掛けている。特に自宅への外泊や外出支援など。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの訪問あり 地域行事への参加、図書館の利用等		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医がいる旨を説明したうえで希望の病院を決めて頂いている 往診は月に1回 訪問は月に4回	基本的にホーム利用前のかかりつけ医を継続するようにしている。提携医による往診が月に1回あり、他の専門科目、病院や医院で受診する際には家族の付き添いを原則としているが、職員が付き添うことが多く、受診前後に家族に連絡と報告をしている。訪問看護師の来訪が月4回あり、24時間オンコール可能となっている。必要に応じて歯科医の往診を受ける体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理について介護職と看護職の連携に努め、看護職員が必要な助言や指示を行っている。夜間は24時間オンコールにて緊急時対応と健康管理について相談・助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室や外来・病院担当看護師との情報交換を積極的に行い、利用者についての適切な処遇について話し合う機会を持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療について、施設として出来る事と出来ない事の範囲について家族と話し、その範囲の中で 協力医の主治医と連携しながら出来る限り本人にとって一番良い方法や環境作りに努めている。	「重度化した場合における看取りの指針」があり、その必要性が生じた時にその都度家族に説明し、意向を確認している。開設以来、看取りの経験が数回あり、現在もターミナルプランを作成し、職員全員で意思統一しながら対応している方がいる。新型コロナウイルス禍で今年度は紙ベースで配布し周知しているが、平常時は看取りに入る前に必ず看取りの研修を行い、スタッフの意識を高めるとともに心の準備もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網意をラインで作成し緊急時も速やかに連携が取れる様に備えている AEDも設置してあるので年に一回指導と研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を実施し、通報設備などを使用して夜間想定・日中想定訓練を行っている 緊急連絡網で訓練も行っている。	今年度は新型コロナウイルス禍で実施できていないが、通常、春と秋、年2回、消防署員立会の下訓練を行い、春は夜間想定で夜勤者一名体制の訓練を行い、秋は昼間を想定し、3名の職員体制で利用者も参加している。万が一に備え、スロープ、コンロ等も備え、食料品や介護用品の備蓄もあり、スプリンクラー・自動火災報知器なども完備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修にて接遇や個人情報保護について学ぶ機会を作っている。毎月の職員会議でも再確認を行うようにしている。個人情報の取り扱いの徹底等努めている	今年度は新型コロナウイルス禍で自粛しているが、毎年度、法人の必須研修としてプライバシー保護や一人ひとりの尊重に関する研修があり、スタッフの人権意識を高めている。法人としての異動により職員の入れ替えもあるが、介護の仕事についての職員の意識は高い。利用者の声掛けは同姓の利用者及び職員が多いことから、名前に「さん」付けで呼びかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、思いや希望を探ったり、1人一人が自分で決定でいる様な場面を提供するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別介護に心掛け、各々のペースで生活して頂ける様に余裕のある過ごし方をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に外部の理髪屋さんに来て頂き本人の希望を聞きながら整えて頂いている 家族の方にもご協力いただき、季節に合わせた服装が出来るようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門で来て頂いて献立通りに作って頂いている 月に1回は希望メニューの日を決めて食べたい物を上げて頂いて多数決で献立が決まる その他 誕生日・記念日・季節の旬な物を提供している	食事については自力で摂取できる方が多く、全介助の方が若干名となっている。食事形態は常食やキザミで、食材によりやわらかくする方もいる。主菜は施設長が考え、副菜については調理専門職員がアレンジし食事づくりをしている。ホームの畑があり、かぼちゃ、トマト、キュウリなどの夏野菜を主に育てており、食卓を彩っている。誕生日には手作りケーキや寿司等が提供され、ほかにテーブルを出してお茶会を開くこともある。外食については新型コロナウイルス禍ということもあり自粛している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や疾患に合わせた栄養バランスや水分量に配慮している 水分を嫌がる人にはゼリーにしたり形や色を変えた献立作りをしている 摂取量は個別に詳細に記録して職員間で周知できるようにしている。摂取量が少ない人は時間をかけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持については研修で学び職員は口腔ケアの重要性を理解している 毎食後のケアは個人の能力に合わせて介助・声掛け・見守りを行っている。義歯は毎日洗浄剤に付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を設けて排泄パターンを把握し。出来だけトイレでの排泄が出来る様、トイレ誘導や声掛けを行うようにしている	リハビリパンツの方が多く、おむつ使用の方が若干名となっている。また、トイレでの排泄に日夜取り組んでおり、自らトイレへ立つ方も多く、生活記録表で24時間の排泄チェックをし、それを基にトイレ誘導し、更に、一日の水分摂取量を1,000ccとしスムーズな排便に繋げている。家族や本人の負担も考慮し、排泄用品に関しては一括購入し、極力低コストに抑えるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動メニューを作成して実行して頂いているその他 水分量の確保・食物繊維の有る物を提供して利用者の状況に合わせて検討し便秘予防に取り組んでいる 排泄チェックシートに詳しく記入し職員がいつでもでも確認できるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、入浴日を決めているが、本人の体調や希望によって、曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応している。	基本的に週2回入浴できるようにしている。シャワー浴の方がいるが足をお湯に浸し、肩にタオルをかけ温まるようにしている。通常は入浴介助と脱衣介助の職員二人で対応している。入浴を拒否されるときがあるが、時間を置いて声掛けしたりスタッフを替えるなどして、臨機に対応している。また菖蒲湯やゆず湯など、季節に合わせた入浴も楽しんでいる。水虫などが見られた時には足浴と布草履などを使い完治へと結びつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動を取り入れ、メリハリのある生活リズムを作る事を心掛け、夜間の安眠に繋げている。また、1人一人の体調に合わせて体に負担の無いよう、日中でも静養時間は自由に取って頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員は把握している。いつでも確認できるようにファイルは身近に置き、変更があった場合は、情報を共有し服薬後の観察経過も記録しいつでも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族からの情報を基に生活歴から趣味、嗜好まで把握し、畑仕事、音楽、裁縫、調理等其々の得意とする分野で出来ることを楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々視線が生み出す彩を楽しむため 外出介助を援助している 外食がしたいとの希望が有れば一緒に外食を楽しんでいる	年間行事計画を立て、平常時はドライブや花見、バラ公園、お田植え祭りなどで外出しているが、今年度は自粛している。日常的にはホームの周りの散歩や玄関先にイスとテーブルを出しお茶を飲んだりして外気にふれてる。外出以外にもホーム内での体操・風船パレー・数字合わせ・脳トレ・手作りかるた・トランプ・塗り絵などを日常的に行い、気分転換を図っている。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向も加味しながら、本人の力量に応じて可能な方のみ本人に任せるようにしているが現在本人管理されている方はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には必要に応じて電話が出来るような支援をしている。最近は逢えないこともありオンラインで面会が出来るようになり希望者には職員が付いて面会している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く ゆったりとしたペースで有車椅子の移動も楽々できる。ホールからは地元の人ならば誰もが知っている山が見え山々は四季折々の様々な物語を語ってくれ。また、キッチンでの食事作りが見え、良い香りが漂い五感に十分な刺激を受けることが出来ている	外玄関は風除室となっており、内玄関から建物内に入ると開放感のあるホールや畳の小上がりがある。壁には利用者や職員の写真が貼られ紹介されている。サツマイモ・キクイモ掘り、ハロウィンなど、日常生活や行事の写真が、ホールの壁の「ゆりかご」というボードに貼られている。共用部分には蓄熱式暖房が3台備え付けられており、快適に過ごせるようになっている。浴室は半埋め込み式で広く、利用者の負担を考えシャワーチェアなども使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮して、テーブルの席を配置している。活動の時も、親しいグループで楽しむことが出来る環境作りを行っている。利用者によっては一人で落ち着いて過ごせるように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に備え付けの、クローゼットが置いてあるので馴染みの家具などでレイアウトを楽しむことはできないが、家族写真・神棚・思い出のぬいぐるみ等傍に置かれ落ち着いた生活をされている	居室にはベッドや可動式クローゼット、天井近くの戸袋などが備え付けられており、収納スペースが十分確保されている。そのため、整理整頓が行き届いており、また、整理ダンス、三段ボックスなど自由に私物を持ち込むことができ、中には位牌を置かれている居室もある。利用者と職員が一緒に作った作品などを壁に飾っている居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の排除を第一に、その人らしい生活を尊重し「出来る事・分かる事」等能力に応じて力を生かしている。残存能力を低下させないための工夫も考え、いつでも自立した生活を送れるようにお手伝い頂いている		